

デジカメの写真をプラカードとして表示する

TNTsim3Dでは、位置情報の付いた画像データベースを利用してデジカメの写真をプラカードとして表示させることができます。景観ファイルと一緒に座標情報を持った画像データベースを作ると、自動的にシミュレーションの各デジカメ写真の位置にグラフィックシンボル（画像の目印）が追加されます。目印としては、画像のプラカードを含む様々なグラフィックシンボルを使うことができます。また、各写真を別の画像表示ウィンドウに表示して、シミュレーションの中の〈MapView〉ウィンドウの中でその位置をたどることも可能です。



上の図は、マウントセントヘレンのデジカメ写真を TNTsim3D でプラカードにしたものです。左の図は、眺めの中央にある写真の位置を異なるスタイルや色を割り当てて表示しています。画像のプラカードは常に見る人の方を向きます。

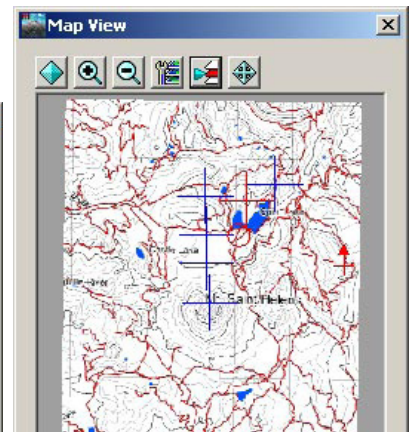
サイズ変更の可能な画像表示ウィンドウには、選択してアクティブになった目印に連動したデジカメの写真が表示されます。またそのウィンドウから、デジカメ写真表示と詳細表示の切り替えが行えます。写真を見ているときは、自動的に写真の場所から景観を見たり、写真の場所を景観の中央に表示させることができます。[Option] ボタンを使って目印のスタイルや色の調整ができます。アクティブまたはアクティブでない目印に、それぞれ違うグラフィックシンボルや色を割り当てることができます。目印に画像のプラカードを使用すると、各デジタル画像は垂直な棒の上に希望の輪郭で表示されます。垂直の棒の高さと輪郭の幅は調節でき、距離によってプラカードの大きさを変えるオプションもあります。

クリックして、拡大、クリックして、次縮小、全範囲の表示、の写真／前の写真1倍表示ができます。を表示します。



クリックすると、目印の設定を行う〈Configure Image Locator〉ウィンドウが開きます。

クリックすると、現在の視点の位置が自動的に調整されます。

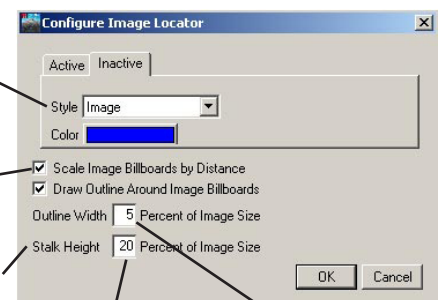


上の図は、地図上にデジカメの写真の場所を示しています。アクティブの目印は赤で表示され、アクティブでない目印は青で示されています。アクティブな目印に連動したデジカメ写真は、別の画像表示ウィンドウに表示されます。（左図）

デジカメ写真をプラカードとして表示する場合は「Style」メニューから [Image] を選択してください。

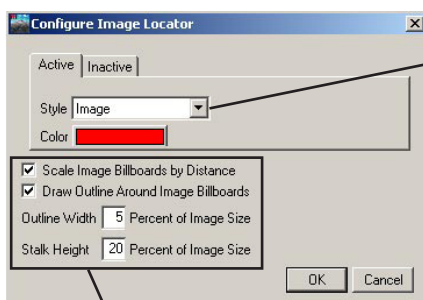
プラカードの大きさを距離によって変えたいときは、このチェックボックスにチェックを入れます。

プラカードの輪郭を選択した色にするときは、このチェックボックスにチェックを入れます。



値を入力して、プラカードの棒の高さを調整します。

値を入力して、プラカードの輪郭の幅を調整します。



「Style」メニューで [Image] を選択するとこの部分がアクティブになります。